

第12セッション 「環境政策評価諸手法の比較と評価B」

10. 完全雇用政策の環境評価

< 報告者 > 野上裕生 (日本貿易振興会アジア経済研究所)

地の利を得たせいかな本年度の報告数は150に迫っており、京都で開催された割には各会場も盛況であった。来年度大会はつくば市で森田恒幸博士 (国立環境研究所) を中心に行われることになっており、学会の更なる飛躍が期待される。

(小島 宏記)

第64回日本民族衛生学会総会

日本民族衛生学会の1999年度大会 (会長: 菅原和夫 弘前大学医学部教授) は9月25~26日、同大学医学部コミュニケ-ションセンター (弘前市) で開催された。初日は下記の特別講演および会長講演が行なわれた。

- 特別講演 . 歩兵五連隊八甲田雪中行軍の謎
松本明知 (弘前大学医学部麻酔科教授)
- . ライフスタイルと健康
森本兼曩 (大阪大学医学部環境医学教授)
- . 豊かなる縄文文化
岡田康博 (青森県教育庁文化課文化財保護主幹)
- 会長講演 運動と活性酸素
菅原和夫 (弘前大学医学部衛生学教授)

2日目は約60題の一般口演がなされ、保健統計、疫学、人類生態など人口学に関連のある分野の発表も多数にのぼった。本研究所からは佐藤が参加し、「保健統計」の分科会で「わが国における未婚者の性行動の現状: 第11回出生動向基本調査の結果から」と題する発表を行なった。

(佐藤龍三郎記)

ヨーロッパ人口会議 (European Population Conference) : 1999年ハーグ (オランダ) に参加して

1999年8月30日 (月) ~ 9月3日 (金) の5日間、オランダのハーグにおいて、ヨーロッパ人口学会 (EAPS), IUSSP, NIDI 等の共催によるヨーロッパ人口会議 (1999年) が開催された。この会議はIUSSPの4年に1度の大会の中間年に行われており、今回で4回目になる (前回は1995年のミラノ大会)。本大会のメイン・テーマは「ヨーロッパ人口 - 多様性のなかの共通性 (European Populations: Unity in Diversity)」というものである。このテーマは、特に第2次大戦後から今日にかけて起こっているヨーロッパ地域の出生力、家族形成、健康・寿命、国際人口移動、高齢化、人口の増加と減少などの人口状況の変化について、その各国間の共通性と異質性を探り、ヨーロッパの人口状況の将来動向を知る手掛かりをうることを目指していると解することができる。

大会の主催者 (オランダ学際人口研究所 (NIDI) が中心) のより具体的な意図は共通論題のテー